

令和 6 年度  
学校関係者評価委員会 報告書

令和 7 年 3 月  
東京女子医科大学看護専門学校 学校関係者評価委員会

# 1. 領域別評価

評価項目	評価	学校関係者からの意見・要望・評価等
1.教育理念・目標	4.0	・法人の理念・目的・育成人材像に則り、保健師助産師看護師学校養成所指定規則を遵守しながら適切に運営を行えている。
2.学校運営	3.8	・法人の基本方針（教育部門）の重点課題に基づき、学校の事業計画を立案。適切に取り組んでいる。 ・学生情報・出席状況・成績管理の一元化は定着できた。課題としていた試験に関連する諸業務に関して、システムを活用し効率化も図れてきた。
3.教育活動	2.8	・少ない人数で200名相当を教育している中で自分たちのことは後回しになってしまうかもしれないが、何らかの自己研鑽できるようなバックアップができるような仕組みがあったらやりがいにつながるように思う。
4.学修成果	3.2	・評価基準に対する対策が、コロナ禍を経て状況が大きく変化しており、国家試験対策の見直しや、退学率低減に対する対策、卒業生の現状把握方法など、多くの改善案が挙げられた。
5.学生支援	3.6	・学生のニーズに応じながら、本学医療施設就職に向けた看護の魅力の伝え方を検討する。
6.教育環境	3.7	・精神面が弱っている学生についてフォロー体制について拡充を期待する。 ・同窓会で行った防災訓練の評判がよかったので、本学学部とのコラボがよいのではないだろうか。
7.学生の受け入れ ・募集	4.0	・指定校が増えたところで応募の学生が増えてよかったが、休学退学について3年の中で学修する大変さは講師としても感じている。学生同士の関わりも毎年雰囲気は違っているので先生が合わせていくのも大変なのだろうと思っている。
8.財務	4.0	・学校の財務は法人の事業計画に基づき、適切に行われている。
9.法令の遵守	4.0	・個人情報に対する学生の認識が薄れつつあり、授業に投影された資料の撮影、臨地実習での不要なスマートフォン持ち込みなどが見られ、対策が必要。
10.社会貢献・地域 貢献	3.0	・病院の防災訓練やクリスマスイベントの実施などボランティア活動を実施。今後全学生の参加を目指すのは良いが、ボランティアの本質は自発的に活動することであり、今後自治会と調整が必要
11.国際交流	2.0	・足立医療センター付近の外国人の方などの特徴的な地域でのコラボみたいな感じを企画してもよいのだと思う ・国際交流に関して、「留学生の受け入れ」に照準があたっているようだが、今日本の在留学人に対しての医療を担う人材も必要になるため、多文化行政のところ、 「優しい日本語の使い方」など、医療の中で活用していくマインドを育てるのも国際交流の視点として良いと思う